

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
施策	①体験活動等の充実及び学校・家庭・地域の相互の連携・協力	
主な取組	沖縄離島体験交流促進事業	実施計画 記載頁 340
対応する 主な課題	沖縄の子どもたちが豊かな心を形成し、生きる知恵、社会性、生まれ育った地域に誇りを持つ人格を形成していくためには、幼い頃から地域活動や体験活動を通して、より多くの人々と触れあうとともに、沖縄の自然、文化をはじめ、国内外の優れた芸術文化に触れる機会等の一層の充実を図る必要がある。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄本島の児童生徒を離島に派遣し、地域の人々や児童生徒との交流のもと、体験学習や民泊等を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1,900人 派遣児童 生徒数				→	→	県
	本島児童生徒を離島へ派遣						
担当部課	企画部地域・離島課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
沖縄離島体験交流促進事業	126,454	122,879	将来を担う児童生徒が、離島の重要性、特殊性及び魅力に対する認識を深めるとともに、沖縄本島と離島との交流促進により、離島地域の活性化を図ることを目的に、沖縄本島の児童生徒を離島に派遣した。【一括交付金(ソフト)】	再掲 3-(12)-オ 312
活動指標名			計画値	実績値
派遣児童生徒数			1,900人	1,904人
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	沖縄本島内の24校57クラス1,904人(21小学校51クラス1,712人、3中学校6クラス192人)の児童生徒を16離島に派遣し、各離島ならではの体験をするとともに、離島小学校24校の児童生徒との交流を行った結果、派遣した児童生徒に離島の重要性、特殊性及び魅力に対する認識を深めることができ、離島地域の活性化を図ることができた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
沖縄離島体験交流促進事業	125,856	将来を担う児童生徒が、離島の重要性、特殊性及び魅力に対する認識を深めるとともに、沖縄本島と離島との交流促進により、離島地域の活性化を図ることを目的に、沖縄本島の児童生徒を離島に派遣する。【一括交付金(ソフト)】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画どおり進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
多様な体験活動に参加した青少年の数	189,529人 (22年)	189,529人 (22年)	205,000人	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	沖縄離島体験交流促進事業については、沖縄本島内の24校57クラス1,904人(21小学校51クラス1,712人、3中学校6クラス192人)の児童生徒を16離島に派遣し、各離島ならではの体験をするとともに、離島小学校24校の児童生徒との交流を行った。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

【内部要因】

沖縄離島体験交流促進事業の応募校数は平成24年度の1,904人(21小学校51クラス1,712人、3中学校6クラス192人)から平成25年度の4,660人(57小学校137クラス4,270人、3中学校11クラス390人)と大幅に増加しており、平成25年度は新たに2島(津堅島、北大東島)が事業に参加し、受入体制も増加傾向にあるため派遣児童数の枠の拡大について検討を行なう必要がある。

【外部環境】

沖縄離島体験交流促進事業に参加した児童生徒からのアンケート調査では満足度97.8%で、「西表の動物は、天然記念物がいっぱいいた。」「尚円王の事がいっぱい知れた。」等と離島でしか味わうことが出来ない経験を待たとの回答があった。一方、離島市町村の受入体制の構築年数の違いや島の風土によって評価・課題に差がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

応募校も平成24年度の21校から平成25年度の57校と大幅に増えており、受け入れる離島市町村も増えていることから、派遣数の枠について検討が必要である。

4 取組の改善案(Action)

沖縄離島体験交流促進事業については、離島市町村の受入体制の構築年数の違いや島の風土によって評価・課題に差があるため、事業実施前にきめ細かい説明会を行なう等、地元の十分な理解を図りながら派遣規模を段階的に拡大していく。